

プロベナゾール粒剤 Dr. オリゼ箱粒剤	取扱メーカー： 北興, Meiji 原体メーカー： Meiji
成分： プロベナゾール……………24.0%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】……………

- 特殊製剤（有効成分の溶出制御）技術による、オリゼメートの育苗箱処理専用剤。長期残効性と水稲への安全性が期待できる。
- 育苗箱施用で葉いもちの発病を長期間抑えることにより、穂いもちの感染を抑える効果が期待できる。
- 育苗箱当り 50 g 施用で、省力的に防除が可能。
- 有効成分のプロベナゾールは、植物の病害に対する抵抗性の誘導により、高い病害防除活性を示す。
- 病原菌に直接殺菌作用を示さないので、他剤耐性菌にも効果が高く、耐性菌の出現の可能性が低い。
- 白葉枯病、もみ枯細菌病、穂枯れ（ごま葉枯病菌）に対しても効果がある。
- オリゼメート粒剤の項参照。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 育苗箱の上から均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、培土に定着させるため散水して田植機で移植する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 苗の葉が濡れていると薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさける。
- 生育初期の葉の黄化や生育遅延を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- 適用作物（稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 夏期高温時の使用はさける。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯する。
- 魚類に影響を及ぼすので、使用時は注意。



【適用と使用方法】……………

作物名	適用病害名	1箱*当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	プロベナゾールを含む 農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病	50 g	緑化期～ 移植当日	1 回	育苗箱の苗の 上から均一 に散布する。	2 回以内 (移植時までの処理 は 1 回以内)
	穂枯れ (ごま葉枯病菌)		移植当日			

* 育苗箱は 30×60×3cm、使用土壌約 5 ℓ